# RUPC2016 Day3 D: Complex Oracle

原案:井上

解説:井上

問題文:井上

解答:青木·井上

## 問題概要

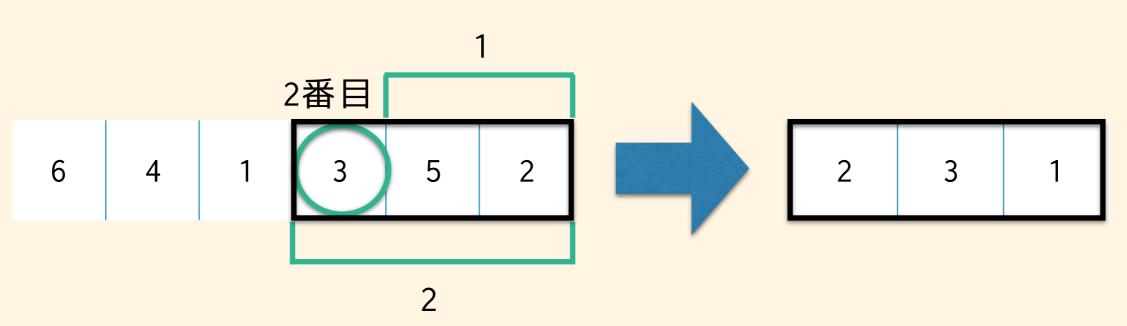
- ・長さNの順列pが隠されている
- · 2つの整数 1, r をサーバーに送ると、区間 [1, r]のコンプレックス度を教えてくれる
  - ・コンプレックス度 := | { (i,j) | p<sub>i</sub>>p<sub>j</sub> か つ l≤i<j≤r} |
- ・200,000回以内のクエリで隠された順列pを当てろ
- ·制約: 1≤N≤100,000

## 問題概要

- ・長さNの順列pが隠されている
- · 2つの整数 1, r をサーバーに送ると、区間 [1, r]のコンプレックス度を教えてくれる
  - ・コンプレックス度 := | { (i,j) |  $p_i > p_j$  かつ  $1 \le i < j \le r$ } |
    - = 転倒数 (=バブルソートの交換回数)
- ・200,000回以内のクエリで隠された順列pを当 てろ
- · 制約: 1≤N≤100,000

## 解法のアイデア

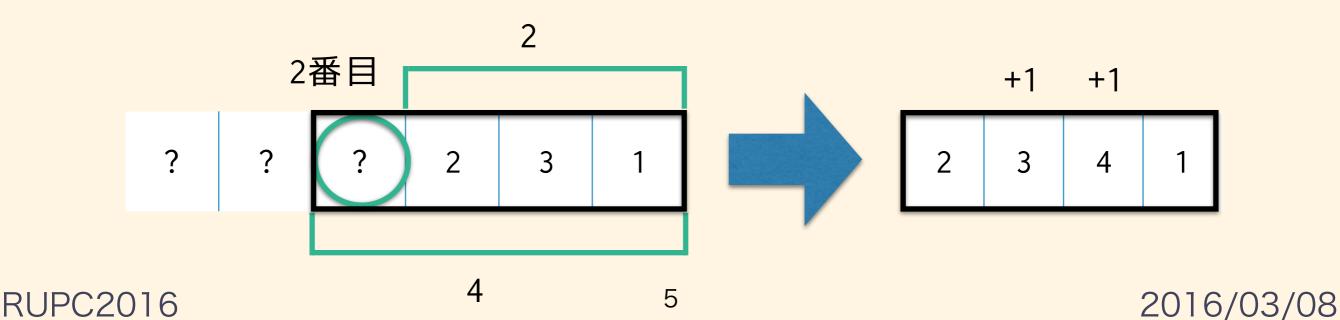
- ・inv(l,r) = | { (i,j) | p<sub>i</sub>>p<sub>j</sub> かつ l≤i<j≤r} | とする
- ・inv(l,r) inv(l+1, r) から、lより右にp<sub>l</sub> より小さい値がいくつあるかわかる
  - → p[1,N] のみの順列での何番目かがわかる



RUPC2016 4 2016/03/08

## TLE解法

- · p[1,N] のみの順列での何番目かがわかる
- ・後ろから更新、p[x]がp[x,N]でk番目なら、
  - ・p[x+1,N]で k≤p[y] であるp[y]を1増やす
  - $\cdot p[x] = k とする$
- ・クエリN-1回、ナイーブに更新するとO(N2)でTLE



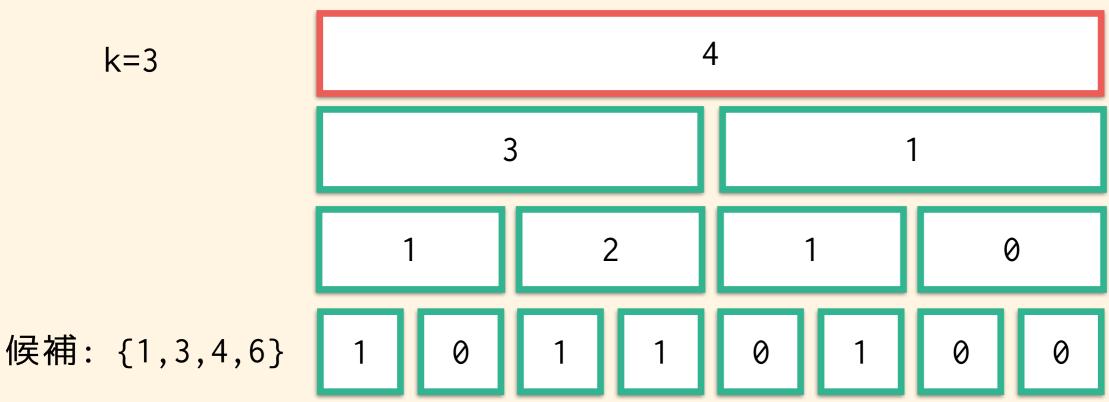
## 想定解法

- ・p[1,N] のみの順列での何番目かがわかる
- ・逆に、前から考えると、まだ使ってない数字で k番目のものを使えばOK
  - ・平衡二分木やセグメントツリーなどを使ってこのクエリを0(logN)で処理して、全体 0(NlogN)
  - ・クエリN-1回



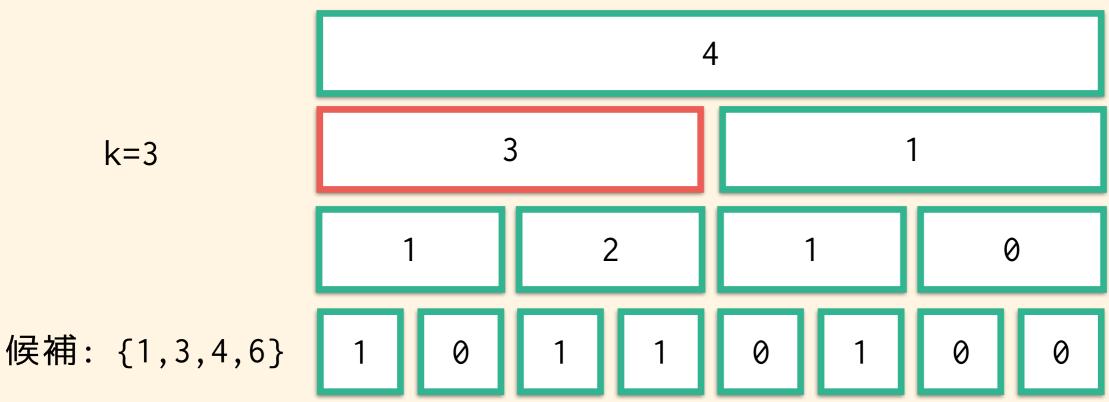
候補: {1,2,5,6}

- ・セグメントツリーについては蟻本等を参照
- ・k番目の要素をとるため、区間和を管理する
  - · k<=sumなら左に降る
  - ・違うなら k = k sum として右に降る



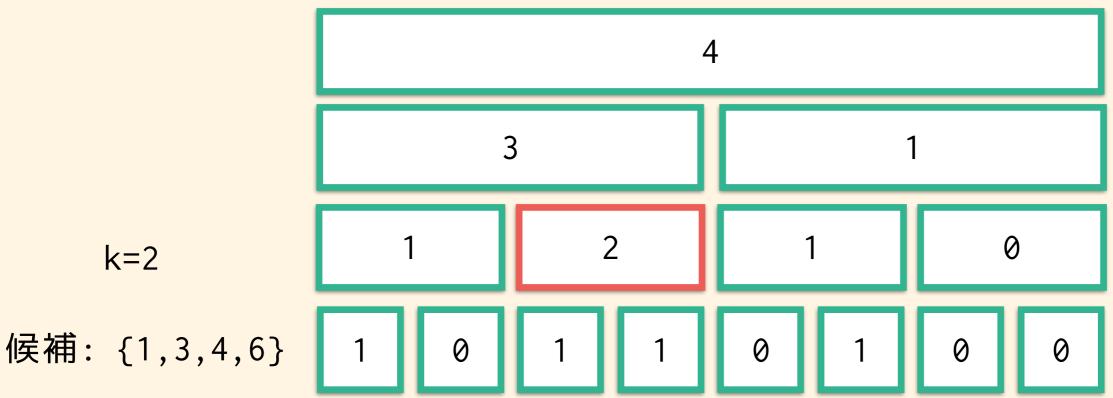
RUPC2016 7 2016/03/08

- ・セグメントツリーについては蟻本等を参照
- ・k番目の要素をとるため、区間和を管理する
  - · k<=sumなら左に降る
  - ・違うなら k = k sum として右に降る



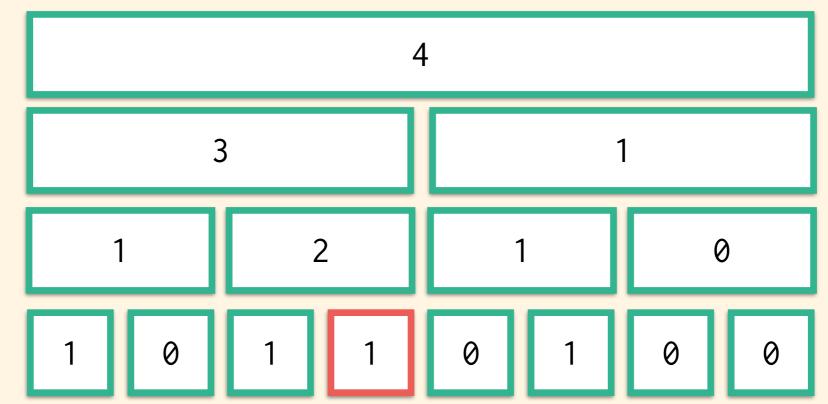
RUPC2016 8 2016/03/08

- ・セグメントツリーについては蟻本等を参照
- ・k番目の要素をとるため、区間和を管理する
  - · k<=sumなら左に降る
  - ・違うなら k = k sum として右に降る



RUPC2016 9 2016/03/08

- ・セグメントツリーについては蟻本等を参照
- ・k番目の要素をとるため、区間和を管理する
  - ・k<=sumなら左に降る
  - ・違うなら k = k sum として右に降る



候補: {1,3,4,6}

## 想定解法2

- ・p[x,N] のみの順列での何番目かがわかる
- ・逆方向にも同様のクエリを投げると、p[1,x] での (降順での) 何番目かがわかる
  - ・x-1個のうちk個が自分より大きい → 自分はx-k 番目
  - 左右に自分より小さい要素がそれぞれa,b個→ 自分は全体でa+b+1番目 → p[x] = a+b+1
  - ・クエリ2N-2回、O(N)



# ジャッジ解

• 青木 (Java, O(N)): 59行 1886B

• 井上 (C++, O(N)): 44行 781B

• 井上 (C++, O(NlogN)): 71行 1308B

## 回答状況

- Accept / Submit
  - 15 / 47 (31.91%)
- First Acceptance
  - onsite: popnow (00:56)
  - online: rickytheta (00:33)